

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル

VOL.

16

2021 AUGUST

きれいな大和川を
目指して



しらかし花を咲かそう会

近くの住民に共感して、
始めた川沿いでの花づくりがエリアの顔に

檀原神宮の森の、すぐ南に檀原ニュータウンは位置します。
近くを流れる高取川沿いは、春には桜が咲き誇り、その下に連なる花壇は、
年間通してさまざまな花が咲き続ける花どころです。
地域の有志で始めた活動が、30年近くこの光景を支えてきました。



しらかし花を咲かそう会 会長

たかい かつみ
高井 克己さん

川沿いの花壇は 花の種類の多さが魅力

檀原市の南部、檀原ニュータウンを流れる高取川の東岸沿い、久米橋の南から見瀬橋にいたる歩道には花壇が整備されています。全長およそ80メートルに及び、一年を通して花が絶えることがありません。四季の移ろいに合わせてさまざまな彩が、行き交う人の目を楽しませてくれます。

この日は年4回の植え替え作業の日。梅雨の晴れ間の日射しを受けて、和気あいあいと作業するのは、しらかし花を咲かそう会の皆さん。ニチニチソウとトシニアの花苗を、土を耕したところへ手際よく植えていきます。

細長い花壇をいくつかのブロックに分け、植え替えを進めているので、作業している横の区画では、オレンジ色がまぶしいマリリーゴールドやピンク色のシシネ、白いシヤスタデイジーなどが元気に咲いています。

「できることなら全部一気に入れ替えられればいいんですけど、メンバーが少ないので、順次入れ替えしていきます」と話すのは、会長の高井克己さん。けれどそのおかげで、川沿いでは年中いつも数



川沿いにずらりと並ぶ花々

種の花が楽しめます。前出の花々のほか、夏のポーチュラカ、秋のパンジー、ピオラ、冬のミニハボタン、さらに、ケイトウ、キンケイギク、ヤブカンゾウ、シオン、アメジストセイジなどなど。一年間で見られる花は、20種あまり。その数は、正確には把握しきれないそうです。

地域の有志が集まって 持ち寄って、活動スタート

この会の立ち上げは、平成6年の9月。今年で27周年を迎えます。「周辺の町の住民の方が、自宅で育てた花を、高取川の堤防にきれいに植えていたそうです。それを見た町内の人たちが集まって、川の土手に花を植えたんですよ。やがて連合自治会の方から、ちゃんと組織として活動してはどうか、会をつくるなら花壇も整備するよ、という話になったようです」。こうして現在の活動の場となっている花壇が、平成6年4月までに整備されました。以後、有志ボランティアで維持管理され、9月のしらかし花を咲かそう会の発足に至ります。現在は、檀原市の花いっぱい運動推進事業にも参加し、活動しています。

もともと有志が自然発生的に集まって、花の種や家の庭の花を持ち寄ったのが活動のルーツということもあり、今でも家から持ってきた花を植えることは会の文化になっています。結果、20種類の花が楽しめるバラエティー豊かな花壇に



上 しらかし花を咲かそう会のみなさん
下 手慣れたようすで進む植え替え



なったといえそうです。

メンバーの持ち込みのほかに、前年に咲かせた花の種を育てて植え替えるなど、できるだけ費用をかけずに、花を増やし、維持するよう工夫をしています。

各人の事情を尊重して いきいきと、長続き

当初は川の両岸で花を育て、西岸では茶木も栽培。シーズンには業者に製茶してもらい、公民館などに提供していたとか。メンバーが20名を超えた時代は、地域のイベントにも積極的に参加して活動を上乘せしたそうです。

現在の活動は、エリアを東岸の花壇とその周辺だけに限定し、無理せず、和気あいあいがモットー。ここまで続けてこられたのも、「来られる時に来てね」というスタンスが良かったんでしょう。欠席する時も、律義に連絡くれなくていいよって言っんです。それぞれ都合や体調があるんですから」。

活動が、『毎週火曜の朝9時から1時間』と固定されているのも、長続きの秘訣のようです。「大きな作業をするから土日に出て！」というものは一切なく、大仕事は分散して、日ごろの活動の中でこなしていきます。メンバーの皆さんも、「これより長い時間ならしんどいけど、1時間くらいならちようどいかな」と口をそろえます。

目下の課題は、新しいメンバーの獲得



●主な活動場所

ですが、なかなか思うようには進みません。「定年は延長になるし、若い人たちは共働きが多いし」と高井さんは言います。

とはいえ、花の手入れをしている皆さんの表情は輝いています。高井さんにいたっては、通りすがりの人に『若い人』認定されているとか。日ごろからいきいき活動することが若さの秘訣！そんなパワーが、新しいメンバーを呼び込む日も近いかも知れません。



無理せず、のびのびと作業

かつらぎわかくさ会

まちの玄関口として、ふさわしい環境づくりを

毎月1回の葛下川周辺の清掃活動が続けること、四半世紀。
地道な活動であればあるほど、継続することは、並大抵ではありません。
そんな、素朴で地道な努力が、今日の葛下川のきれいな景観を守っています。
この活動を未来につなぐため、いま必要なことを考えています



かつらぎわかくさ会 会長

たていしいわお
立石 巖さん

沢山の人が行き交う場所、
きれいにしないと恥ずかしい！

王寺町の南東部、JR畠田駅周辺は、隣接する上牧町や香芝市の住民も行き交う、いわば町の南の玄関口です。王寺町のCCC※登録団体であるかつらぎわかくさ会は、このJRの線路沿いから東側の葛下川にいたるエリアで、26年間にわたって清掃活動を続けています。

その活動内容は、道路や公園の清掃、線路沿いの草刈り、葛下川および親水公園「ウォータースクエア」の清掃、葛下川の堤防の草刈りなど、多岐にわたります。

所属する自治会のエリアを越えて清掃しているところもあるそうです。「このまちの人たちが駅や買い物に行くのにも、いちばん通る場所ですから。それに、上牧町や香芝市の方たちもたくさん行き来するので、きれいにしておかないと恥ずかしいというのもあるんです」と使命感を語ってくれたのは、前会長の永井通子さん。

長年活動を続けている、そのモチベーションの二つとなっているのでしょう。

最近20年ほどで
活動中止はわずか2回

「活動を始めたのは、平成7年からなんです」と、会長の立石巖さん。「王寺町では、平成5年から『水と緑のまち

づくり』が始まりました。当時の町長の肝いりで、各自治会に美化活動のグループをつくってほしいとお話があり、かつらぎわかくさ会もこれに応える心意気でスタートしました」。

以来たゆまず、毎月1回、第3木曜日の朝の活動を続けてきた同会。「同様の活動でも、雨が降れば中止となる場合が多いですが、うちは基本雨天順延。ここ20年間やってきて、中止したのは2回くらいです」。

皆さんボランティアにもかかわらず、それほどまでに熱心に活動に取り組んでこられた力の源は何なのでしょうが。

永井さんは続けます、「こうして屋外で作業していると、みんなの健康そうな顔が見られて元気がもらえます。それに、家にはわからない、いろんな情報が入ってくるんです」。

川をきれいにするという使命ややりがいでなく、皆さんが何よりも活動を楽しくしていることが、長く活動を続けてこられた秘訣なのかもしれません。



にこやかに、楽しみながらの作業



上 梅雨にもかかわらず活動日はなぜか晴天
下 葛下川に注ぐ風呂川（通称：地蔵川）沿いの親水公園「ウォータースクエア」も清掃



町と県との連携で川をきれいに！

この春、四半世紀におよぶ活動の蓄積が、効果を発揮したのではないかといってきこがありました。

「葛下川の掃除で、自転車や古タイヤなどの粗大ゴミには驚かなくなりましたが、数年前にコンクリートの瓦礫が大量に捨てられたことがあります。とても我々の手に負える状況ではなかったことから、地元町議会議員を通じて王寺町と高田土木事務所と相談し、現場を見ていただいたんです。すると今年の3月に、川ざらいをしていただくことができました。長年の活動が実を結んだと感ずるとともに、県や町との連携を進めることで、今までになかった活動の広がりを感じることができました」。



瓦礫を投棄され、無残な姿の葛下川

積み重ねた実績を将来に受け継ぐために

長年の活動でまちと川のきれいづくりに貢献してきた同会ですが、当面の課題は会員の獲得だそうです。現在の平均年齢は81・5歳。新たなメンバーを迎え入れないと存続が危ぶまれると、

立石さんは危機感を募らせます。変わらないことで成果を上げてきた同会ですが、変わることに必要性について、今検討を進めています。

「現在は年会費を納めて活動してきますが、興味のあるイベントに参加するときのみ費用を集めるなど、今までは根本的に考え方を変える時なのかもしれません。この前、自治会の草刈り活動に合わせて、土曜日の作業を試みたところ、若い人にも参加してもらえました。今までは考えてなかった手法も取り入れないといけませんね」。

自治会や町・県との連携を強めたり、ある一定の年齢になった自治会員には、試行的にわかきさ会へ入会してもらおう、などのアイデアも。地域美化の経験と実績を活かし、将来世代につなぐための試行錯誤が続きます。

※CCC：クリエイト・クリーン・サークルの略。王寺町が独自に進めている美化ボランティア活動。美しい町を創造するため、自発的に美化を行う団体を組織して取り組んでもらうもの。



— 主な活動場所



奈良市

六条校区自治連合会

地元を流れる一級河川 乾川を、きれいに

自分たちの足元を流れているのに、ふだん気に留めることもなく、むしろ警戒の対象だった地元の川。年一回の清掃活動を通して、日常とのさまざまな関わりを知り、身近な存在になっていきます。きっかけは、高校生たちが地域を想う、真っ直ぐな心とのコラボレーションでした。



六条校区自治連合会 会長

こうづき しげお
河月 滋男さん

きっかけは、地元の高校生
地域を考える彼らの研究から

奈良市の西部、市立六条小学校の校区内には、42の自治会があります。そのうち35もの自治会が参加している連合体、それが六条校区自治連合会です。この校区を流れ、薬師寺の南を抜けて秋篠川に注ぐ一級河川「乾川」の清掃を、平成27年から毎年実施してきました。

「実は、『乾川＝一級河川』という認識が、それまで全然なかったんです。高校生の発表を聞いて、初めて知りました」。お話を伺ったのは、会長の河月滋男さんです。高校生というのは、校区内にある県立西の京高等学校の地域創生コースの生徒たちのこと。平成25年、地域の課題解決を目指す研究テーマとして乾川を取り上げ、その成果を地域の関係者も交えた発表会で報告してくれました。その中で衝撃を受けたのは、住民アンケートの結果で8割近くの方が乾川を「汚い」と評価していたこと。



意外と深さがあるため慎重に川原へ

たこと。河月さんは言います。「生徒たちから、『きれいにするには、地域との協働が必要』という提案がありました。それを受けて、地元自治会でも清掃に取り組もうというところで始まったんです」。

未経験の河川清掃
行政とも連携し、川をきれいに

それまでも地域の清掃は自治会でしっかりやっていたものの、河川の清掃は全く未経験のこと。「単純に、ペットボトルなどのごみを拾うだけかと思っただら、とんでもない。鉄パイプとか、古タイヤ、古い自転車なんかがたくさんあって、引き上げるのがたいへん！もちろん空き缶もたくさん拾いました」。最初は70リットルのゴミ袋で50くらいは回収したそうですが、「きれいになるほど汚しくいんですよ。最近のごみが減ってきました。それでもゴミ袋20〜30にはなりますが」。



川から引き上げられた粗大ゴミ



上 早朝から、高校生を含めた100名以上が集結
下・右 子どもから大人まで、乾川のゴミ拾いから
交流が生まれます



清掃する中で、自分たちだけでは解決できないこともあります。「川の中に生えている草も木も、我々としては雑草で、そこにゴミも溜まるので、つい抜きたくありません。そこで奈良土木事務所に相談したところ、現場に来てもらって随分ときれいにしてくださいということもありました」。

**清掃をきっかけに気づきが生まれ
きれいで、安全な乾川へ**

清掃活動を手掛けるまで、河月さんにとっての乾川は、『すぐに氾濫する危ない川』という印象だったそうです。ところが清掃活動を始めると、川が身近な存在となり、愛着のようなものが芽生え始めました。すると美化のことに限らず色々な問題・課題が目につくようになりました。「それらの中には、私たちが解決できること、できないことがあります。できることは私たちが一生懸命やらせてもらいますが、できない部分は行政と連携してすすめるしかない。以前はどこに連絡するかさえ分かりませんでした。今では相談するところが分かってきたように思います」。

こういった連携を進めていく中で、例えば川の危険だった箇所等に等間隔で蛍光ポールが立つなど、安全面においても少しずつ改善しているように感じます。

**活動や団体の存続問題に
二石を投じる“コロボ”**

当初は100名弱で始まった乾川の清掃活動は、2年目には100名を超える参加者を集めました。コロナ禍で実施された昨年はいくと、「西の京高校の参加希望が、120名くらいありました。ふだんの活動ができないので、何か地域貢献したいという想いがあったんでしょう。こちらが対応できないので、残念ながら50名にしてみました」。

いま、各地で活動する団体の多くが、メンバーの獲得に苦労していますが、同会においてもボランティア活動に消極的な自治会が増えてきているとか。そんななか、高校生とのコラボレーションは、一つの明るい兆しではないでしょうか。

最近では小魚が泳ぐ姿が見受けられるという乾川、「こういう川があつて、少しずつきれいになってることを知っていただければ嬉しく思います」。その目を細める河月さん。地元の川を大切にしたいという強い思いが、今日のきれいな乾川の流れに繋がっています。



●主な活動場所

一人ひとりの工夫で川の水をきれいにしましょう！

- 大和川の水質は流域全体の取り組みによって年々改善されてきていますが、まだまだ改善の余地が残されています。
- 水が汚れる原因の約7割は生活排水です。川をきれいにするためには、私たちの取り組みが大切です。

残さない

食事は食べる分量だけ作り、残らないようにしましょう！

～ワンポイント～

残ったら次の日に活用できるように冷蔵庫で保存しましょう！



ふき取る

食器やフライパンなどの汚れは拭き取ってから洗いましょう！

～ワンポイント～

古着などをカットして使えばムダなごみもありません！

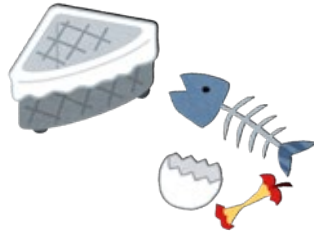


流さない

食べ残しや残りクズを、直接流さないようにしましょう！

～ワンポイント～

三角コーナーや水切りネットを上手く活用しましょう！



ごみを減らす

ごみになるものを買わない・もらわないようにしましょう！

マイバッグ・マイボトルを持参しましょう！



エコで川にも家計にもやさしい！

「地域の河川サポート事業」参加団体募集！

～河川美化活動を支援します～

地域による河川美化活動を育成し、憩いと潤いのある河川空間を創出するため、地域住民の皆様が主体的に実施される河川美化活動（河川の清掃・草刈・花の植栽等）を支援します。

3つのプログラムがあります。活動内容にあったプログラムでご参加ください！

憩いの川づくりプログラム



内容 草刈り
要件 1回の参加人数10人以上
年間1回以上、延長100m以上
刈り取り高10cm以下
支援内容 面積に応じた報償金の支給 (㎡×9円)
傷害・賠償責任保険の加入
看板の設置

彩り花づつみプログラム



内容 花の植栽・維持管理
要件 1回の参加人数3人以上
年間1回以上
支援内容 面積に応じた報償金の支給 (㎡×320円)
※花苗の植えつけ及び
維持管理の場合
傷害・賠償責任保険の加入
看板の設置
花苗等の物品の支給

ボランティア支援プログラム



内容 清掃
(軽微な草刈りを含む)
要件 1回の参加人数5人以上
年間1回以上、延長50m以上
支援内容 報償金の支給または、
傷害・賠償責任保険の加入

詳しくは県水資源政策課水循環政策係までお問い合わせください。

お問い合わせ先 奈良県水資源政策課 TEL.0742-27-8489 URL. <http://www.pref.nara.jp/17237.htm>